



ロシアのウクライナ侵攻 「許容されない」

宝金総長がメッセージ

ロシアがウクライナへの軍事侵攻を2月24日に開始したことを受け、本学は28日、軍事侵攻に反対する総長メッセージを発表した。また本学のスラブ・ユーラシア研究センターは25日に「緊急アピール」として侵攻への反対を表明するとともに、ロシアへの経済制裁などについて専門家らが議論する緊急セミナーや座談会を相次いで企画している。

4か国語の

総長メッセージ

本学の宝金清博総長は28日、本学ホームページを通じてメッセージを発表。日本語・英語・ロシア語・ウクライナ語の4か国語で発信した「侵攻は、紛争の平和的解決という国際的、普遍的合意を無視したものであり、許容されない。軍事介入の即時終結と紛争の平和的解決を強く求める」とした上で、本学が日ロの大学間交流に深く関与してきた経緯を踏まえ「現状を深く憂慮する」と表明。紛争の平和的解決に向けてロシアの学界で議論が行われることへの期待を示すとともに、本学のロシア・ウクライナ双方の学生や教員の平穩を維持するため「万全の取組を行う」とした。

感染患者急増で BCCPレベル2に

4月から3回目職域接種実施へ

本学は2022年1月9日から2月17日までに、計43人の感染を発表した。内訳は学生41人、職員2人。これにより、本学での感染は累計217人となった。また構成員の新規感染者も増加している。

濃厚接触者の急増やまん延防止等重点措置の全国的な適応を受けて、本学は22年1月24日に新型コロナウイルスにおける本学構成員の行動指針(BCCP)をレベル1から2に引き上げた。

レベル2は21年10月下旬以来、授業に関しては感染対策が十分な科目は対面で行なえる一方、それ以外の科目はオンラインに切り替えられた。研究活動は十分配慮して行うことができるが、「密」の状態が生じないか確認し、可能な限り現場での滞在時間を減らすように求められた。課外活動については感染防止に十分注意した上で認められている。

また本学は、ゴールデンウィーク期間を除く、22年4月29日から6月12日の土日に3回目の職域接種を行うことを明らかにした。21年に行われた2回目接種から7カ月以上(住民票のある市区町村が2回目接種から6カ月以上経過後の接種を認められている場合は6カ月)経過した、本学と小樽商科大学の接種を希望する構成員などを対象とし、クラーク会館で行

3月号
 <編集・発行>
北海道大学新聞
 編集部
 <URL>
 hokudaishinbun.com
 (お問い合わせ・情報提供もこちらから)
 次の発行予定は4月

CONTENTS

- ・ウクライナ侵攻「許容されない」宝金総長がメッセージ…1面
- ・BCCPレベル2へ 4月から3回目職域接種…1面
- ・きらり北大生 間借りカレー店・谷郁香さん…2面
- ・北大サークルラボ ほか…2面

緊急セミナーを企画

シミュレーションが合併症リスクを低下

北大医学研究院 尿管鏡手術で共同研究

本学医学研究院・腎泌尿器外科教室の研究グループは、尿管鏡手術の手術シミュレーショントレーニングの有効性について、医師の合併症発生リスクの低減につながることを明らかにした。

英国キングスカレッジ・ロンドンが主導した共同研究に参加した。尿管鏡手術は世界中で広く行われている方式であり、主に尿路結石の手術で使われる。今回の研究ではこの術式の経験が10例以下、かつシミュレーションの経験がない医師を集め、シミュレーションと従来のオンザジョブトレーニングとで手術パフォーマンスの差を調べた。シミュレーション

に比べて、シミュレーションを受けた医師はスコアはより高く、患者の合併症・尿管損傷の数が低下したという。



研究グループの安部崇重(たかしげ)准教授は、現状では手術シミュレーションによる教育の実施については各医療機関に委ねられていることを指摘したうえで、「(トレーニングを行うことで)合併症リスクが下がるといふ事実があるので、上級医や病院は必ずシミュレーショントレーニングを取り入れるべき」と話す。また「シミュレーショントレーニングは尿管鏡手術以外の術式の初期学習にも有効と考えられる」とも語った。

えるむ歌壇 【第四回】

爪先に袖に睫毛に乗って思い思いに溶けてゆく雪
 海流のように春がやってきましたそれからというものみんなは卵で生まれます
 のろのろと陽射しから手が萌えそめて体ができて春のひとつと
 み捨てられ畑の苺の葉のつちをぬぐいおとせた幸せだった
 持ちものを貸しつづいた春の日に海は聡明なままになくなる

／西希
 ／山口在果
 ／草加ボルポローネ
 ／朝風布衣

提供：北海道大学短歌会

北海道ワインシンポジオン 初開催

道産ワインの可能性を議論

第1回北海道ワインシンポジオンが2月15・16日に本学のフード&メディアカル国際拠点で開催され、同時にオンラインでも配信された。多くの大学教授や研究者、ブドウ農家に加えて大学生も参加し、北海道産ワインの発展や未来に関して熱い議論が交わされた。

シンポジオンでは、「北海道のワイン研究の現状」と題し、北海道のワイン産業の展望をはじめ、ワイン用ブドウに最適な土壌や病害についてなど多角的な視点から話し合われた。

講演する曾根教授

本学農学研究院の曾根輝夫教授(ワインのヌーヴェルヴァーク研究室所属)は、北海道はまだワイン産地としては途上段階にあるとし、たうえて「真のワイン産地になるには大学と産地の連携が必要」と本学の役割を強調した。またヌーヴェルヴァーク研究室を土台として2023年に北海道ワイン教育研究センターを旧昆虫学及養蚕学教室内に設置する予定であるという。

話題の人に会える! THE MAINSTREET 北海道大学新聞編集部

北大の「今」がわかる! 文理問わず大歓迎!!

新メンバー募集中!

ぜひ、北大新聞

新メンバーは随時受け付けておりますので、興味を持った方は hokudaishinbun@gmail.com にご連絡ください!! (新歓も鋭意準備中です)



「食を通じて人と人との つながりを生み出したい」

間借りカレー店「ふくろう」出店の北大生・谷郁香さん

本学教育学部1年の谷郁香(ふみか)さんは飲食店などを間借りしてオリジナルカレーの提供に取り組んできた。活動を通して「食」への興味が広がり、今後は大学生の食に対する意識向上に取り組みたいと意気込む。そんな谷さんに間借りカレーを始めた経緯と今後の展望を聞いた。

カレーを提供するに 至った経緯は?

所属していた学生団体でオンラインイベントを主催する立場になった際に、「一カ月後の夢を叶えよう」という企画をする話になったのはいいものの、なかなか夢が思い浮かばなくて。その

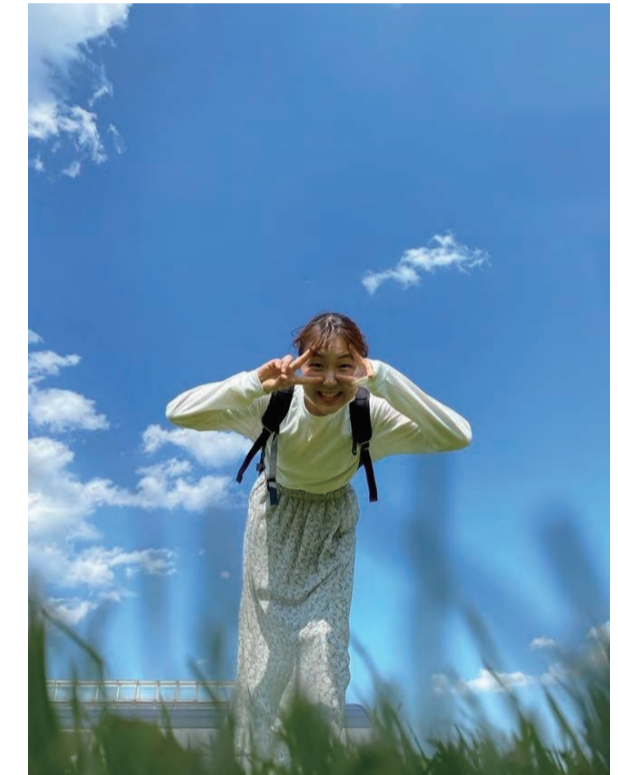
時に誰かが「好きな食べ物は何か?」と聞いてくれて、カレーが好きだと答えたのを学生経営バル「t.a.s.u.KI(タスキ)」の店長さんが聞いており、間借りで一日カレー屋をやってみないかと誘っていただいたのが始まりです。もともとカレー作りは未経験でしたがイベントの準備期間が一カ月しかなかったため、おいしいカレーを作るべく試作を重ねて、毎日カレーを食べてました(笑)。

カレー店をしていてやりがいを感じたことはありませんか?

おいしいカレーを提供することはもちろん大事だとは思いますが、間借りカレー店に来てくれるお客さん同士が仲良くなる場になったのは良かったです。カレーを通じて人と人をつなぐ場作りができたことは



様々な種類のカレーのレシピを参考にしてオリジナルのカレーを作る (本人提供)



谷郁香さん (本人提供)

お客さんからは「料理上手なの?」と聞かれますが、実際のところカレー以外あまり作らないんですよ。

非常に面白かったです。カレーはいつから好きですか?

高校3年生の受験期にお母さんがスパイスカレーにハマって毎週金曜日の夜に作ってくれて、それから本格的に好きになりました。コロナ禍で休校も多くなって友達にも会えない状況だった

最優秀作のカレーは?

カレー作り特にこだわりはなく、呼んでいただいたイベントにあったカレー作りを心掛けています。11月の終わりに江別市であった若者主催のイベントで提供した無水パキスタンカレーがめちゃくちゃおいしくて(笑)。お客さんにも好評で今でも「あの時のカレー美味しかった」と言われますね。私自身も胸を張って「美味しい」といえる出来栄でした。

今後の展望は?

カレー以外にも「暮らし」や「地域」「食」といったトピックに興味があつていて、いろいろとアイデアを

2021年 スイカ栽培記録

From ほくだい畑



本学札幌キャンパス内の畑での活動の様子

しか食べなかつたり、朝昼食べないで夜にメロンパン一個しか食べなかつたりという人が少なくありません。不摂生をしてもまだ若いから体にかなっているかもしれないませんが、年を取ってから体に思わぬガタが出てきてしまうかもしれません。食は体の健康だけではなく、心の健康にも関係していると思うので、大変問題だと感じます。私はもともと食べるのが好きで農業にも興味があり、「こんなにいい野菜があつてこんなにいい生産者さんがいるのに!」ともどかしさも覚えます。また日本全体で野菜やお米の消費量が減っていることも心配です。

スイカの苗

タヒチの場合にはつるを地面に這わせる一般的な栽培で育てることにし、紅こだまは支柱を矢倉状に立て、立体栽培をすることにしました。また、キュウリやスイカなどで発生し、全体が枯れてしまう「つる割病」

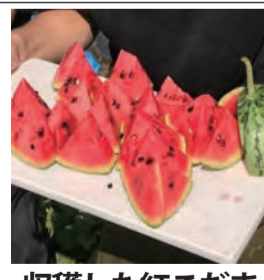
予防のために、コンパニオンプランツとしてコネギをそばに植えました。

その後の生育は、夜間の冷え込みから苗を守るため、タヒチに関してはビニールで保温していましたが、管理は中々手間がかかり生育は当初のスケジュールから遅れてしまいました。ただ、全株無事に成長して、紅こだまは8月上旬から収穫が始まり、大玉のタヒチの方は9月の初めあたりから収穫が始まりました。ですが残念なことに、なった実の半数ぐらいをカラスに食べられてしまい、非常に悔しい思いをしました。来年以降は防鳥対策を強化していきたいと考えています。

【サークル情報】

ほくだい畑

北大構内に畑を持つ、唯一の農業系サークルで、部員数は111人。活動日は月・水・金曜日。詳しい情報は公式Twitterの@HU_farm_clubまで。



収穫した紅こだま

北大の「今」を発信中!

ウェブサイト (THE MAINSTREET)

Twitter (@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET

Powered by 北海道大学新聞編集部